

あっ！ そっ！

令和4年9月

麻生支部授業研究会

7月6日(水)に柿生小学校にて麻生支部授業研究会が行われました。ご多用の中、多くの方にご参加いただきありがとうございました。

今年度の麻生支部の研究領域である「体づくり運動 体の動きを高める運動」での授業を通じて、めざす子どもの姿や身に付けさせたい資質・能力などを考えていくきっかけとなる授業研究になりました。

研究協議では、多くの方から意見や感想をいただき、活発な意見交流ができました。話題になったことや意見・感想をまとめてみました。

麻生支部研究テーマ

「体の動きを高めるために、友達と一緒に運動の仕方を工夫しながら
継続して取り組むことができる授業づくりをめざして」

授業改善の視点

- どうしたら体の動きが高まるかを考え、めあてをもって活動する姿（主体的）
- 運動の仕方を工夫して体の動きを高めようとする姿（対話的）
- 体育学習や日常生活で、継続して体の動きを高めようとする姿（深い学び）



めざす子供の姿

体の動きを高めるために、友達と一緒に運動の仕方を工夫しながら継続して取り組む姿

【テーマに迫るための学習の道すじと研究の視点】

- ① 正しい行い方を知る
- ② 自分の体の動きについて知る
 - 数値（回数・距離・時間など）
 - 達成（できる・できない）
 - 感覚（楽・つらい）
- ③ めあてをもつ「もっと体の動きを高めたい」（必要感）
 - 自分の体の動きをしる
 - 体の動きが高まった実感
 - 具体的な目標の設定
- ④ 運動を工夫して行う「動きを高めるために○○しよう」
 - 友達との見合い・教え合い（動きの変化に気付く・アドバイス）
 - 教師の言葉かけ（体の動かし方に気付く）
 - ICTの活用（体の動きの高まりを実感）
- ⑤ 体の動きの高まりを実感する

<視点1>

子供たちが体の動きが高まったと
実感できる運動を探る

<視点2>

自分のめあてに合った運動を
選ぶための手立てを探る

《 6年生 体づくり運動 「体の動きを高める運動」 授業者 井上 裕介 先生 》

☆場が魅力的だった。見合いの様子が見られた。1〜4時間目の子供たちの様子は、どうだったのか。

◎とにかく楽しんでいて。早い段階から「もっとこうしたい!」と思いをもち、自分で高めていく姿があった。

☆「タイミングフラッシュ」の作り方は?

◎ムービーメーカーのエンドロールを使用した。タイミングを合わせるのはかなり難しい。

○レベル1〜4をクリアしている児童がいた。自分で工夫していくこともできると感じた。「〇〇スペシャル」など。

○レベル1〜4までであったことは、よかった。しかし、それぞれのレベルの説明文が長いように感じた。

○2人で「タイミングフラッシュ」をする姿があり、よかった。動きが小さいように感じた。ジャンプなどの動きを入れるとよいと感じた。「できなかった」という児童に対して「どうしたらできるのかな?」という振り返りができたらよかったのでは。もったいないと感じた。

○児童が高まりを実感しているのか疑問に感じた。レベル設定がある上で、工夫を加えるとさらによいと感じた。

○友達同士で見合うことが励みになっていたようで、見てもらうことは大事だなと感じた。「タイミングフラッシュ」では「画面よりステップ見てあげよう」と伝えるとよいのでは。「正しい行い方」は、とても大切だと感じた。

☆「タイミングフラッシュ」での児童の動きはリズムカルな動きになっていないように感じたが、よかったのか?

◎膝を使ってリズムをとっている児童がいたので、単元後半で紹介しようと考えている。

☆「ストレッチ」の伝え方や指導の仕方は、どのように行ったのか。

◎前半は教師主導で一緒に行った。後半は自分が重点的に伸ばしたい部分のストレッチをするように伝えた。

☆「地域・家庭での取組」とは、どんなものがあつたのか。

◎「体の柔らかさを高める運動」は「すぐにできること」と伝えた。「お風呂上がりに父親」という児童もいた。「巧みな動きを高める運動」も日常でできることはあると思うので、取り組んでほしいと感じている。

指導講評：山室 忠敏 先生（川崎市立小学校体育研究会助言者、川崎市立はるひ野小学校 教頭）

●体育の授業を参観するにあたって授業の観点

子供：①精一杯動く（運動量）②できた体験（技能向上）③仲よく運動（協力）④わかったの実感（知的理解）

教師：①評価規準と具体的な子供の姿のつながり①指導案に記載されている「本時のねらい」と子供に提示する学習課題②「本時のねらい」が達成されるための言葉かけや活動、場になっている③評価の観点と「本時のねらい」がリンクしている④「本時のねらい」に沿った「ふりかえり」になっている

●指導要領では「体の柔らかさを高める運動」と「巧みな動きを高める運動」を小学校で重点的に行うことが示されている。小学生はゴールデンエイジと呼ばれる発達段階で、いろいろな運動を経験させたい時期である。

●麻生支部の研究において「動きのポイントを知り、体の動かし方を工夫する」とある。動きのポイントを知り、工夫するためには、正しくその動きを行うことと、その動き（運動）の意図を外れないことが大切である。

●授業を計画する際に大切にしたいことは、Plan→Do→Check→Action→Planのサイクルに沿った授業の構築。

・ねらいを明確にした指導（身につけさせたい力の明確化）

・精度の高い評価方法を通して、ねらいや指導が適切であったか振り返る